

8 複合化モデルプランに係るワークショップについて

(1) 子どもワークショップ

ア 概要

検討委員会の提言では、公共施設の再構築に向けた基本的方向性の1つとして、小学校を中心とした公共施設の複合化が掲げられており、複合化が適当な機能の組み合わせについてモデルプランを作成することが適当とされている。

これを受け、基本方針に盛り込むモデルプラン作成に当たって、子どもの意見を反映することを目的として、児童会館等の利用者を対象に「私たちが考える将来の学校」をテーマに、将来の小学校複合化のイメージ、効果や課題を議論し発表するグループワークを実施。主な意見については、後日開催する地域住民・施設管理者ワークショップの議論に反映させる。

イ 実施場所・実施時期

- ・栄西小ミニ児童会館～平成26年6月10日（火）、17日（火）、24日（火）
- ・発寒児童会館～平成26年6月13日（金）、20日（金）、25日（水）

ウ 実施対象

- ・栄西小ミニ児童会館～小学2～5年生34名（全3回の延べ人数）
- ・発寒児童会館～小学2～5年生38名（全3回の延べ人数）

エ 主な意見

※○は複合化による効果、×は課題を示す

栄西小ミニ児童会館

①音楽室でピアノ教室を開催する

- 学校で練習でき、ピアノが上手になる。

②小学校に病院など地域住民が利用できる施設を複合化する

- みんなが利用できる施設になる。
- × 多くの人を訪れるので、安全に気を付ける必要がある。

③小学校の色々な場所に手すりや開閉ボタンを付ける

- 障がいのある方が学校を利用しやすくなる。



発寒児童会館

①近所に住んでいる方が習い事教室を開く

- お年寄りから将棋やそろばんを教えてもらえる。

②小学校に交番や消防署を複合化する

- 学校がより安全な場所になる。

③小学校に児童会館を複合化する

- 放課後すぐに遊ぶことができる。



(2) 地域住民・施設管理者ワークショップ

ア 概要

検討委員会の提言では、公共施設の再構築に向けた基本的方向性の1つとして、小学校を中心とした公共施設の複合化が掲げられており、複合化が適当な機能の組み合わせについて、モデルプランを作成することが適当とされている。

これを受け、基本方針に盛り込むモデルプラン作成に当たって、主たる利用者である地域住民や施設管理者の意見を取り入れることを目的としてワークショップを開催。

イ 実施場所・実施時期

- ・栄西小学校～平成26年7月14日（月）
- ・発寒西小学校～平成26年7月17日（木）

ウ 実施対象

上記小学校が属する連合町内会の住民、施設管理者など約30名

エ メンバー構成

- ・施設管理者（小中学校教頭、児童会館館長、まちづくりセンター所長など）
- ・町内会関係者
- ・小学校PTA関係者
- ・一般参加者（大学生、子育て世代、高齢者世代、図書サービス関係者、健康づくり活動関係者など）

オ 討議方法

- ・ファシリテーターの司会による進行と取りまとめ
- ・各4グループ（A～D）に分かれての討議
- ・各グループは、7～8名で構成
- ・機能カードを使用して、模造紙の上に複合化された小学校のレイアウトを検討

カ 実施内容

①札幌市からのあいさつ

②各グループ討議

- ・小学校と複合化すべき施設や機能についての意見収集
- ・レイアウト（機能の配置や組み合わせ）の検討

③各グループ発表

④札幌市からの終了挨拶

キ その他

参加者がワークショップ当日に実効性ある議論ができるよう、ワークショップ開催日の約1週間前に、市有建築物の現状や既存複合施設の利用者アンケート結果等の情報提供及び市職員との質疑応答を目的とした事前勉強会を実施。



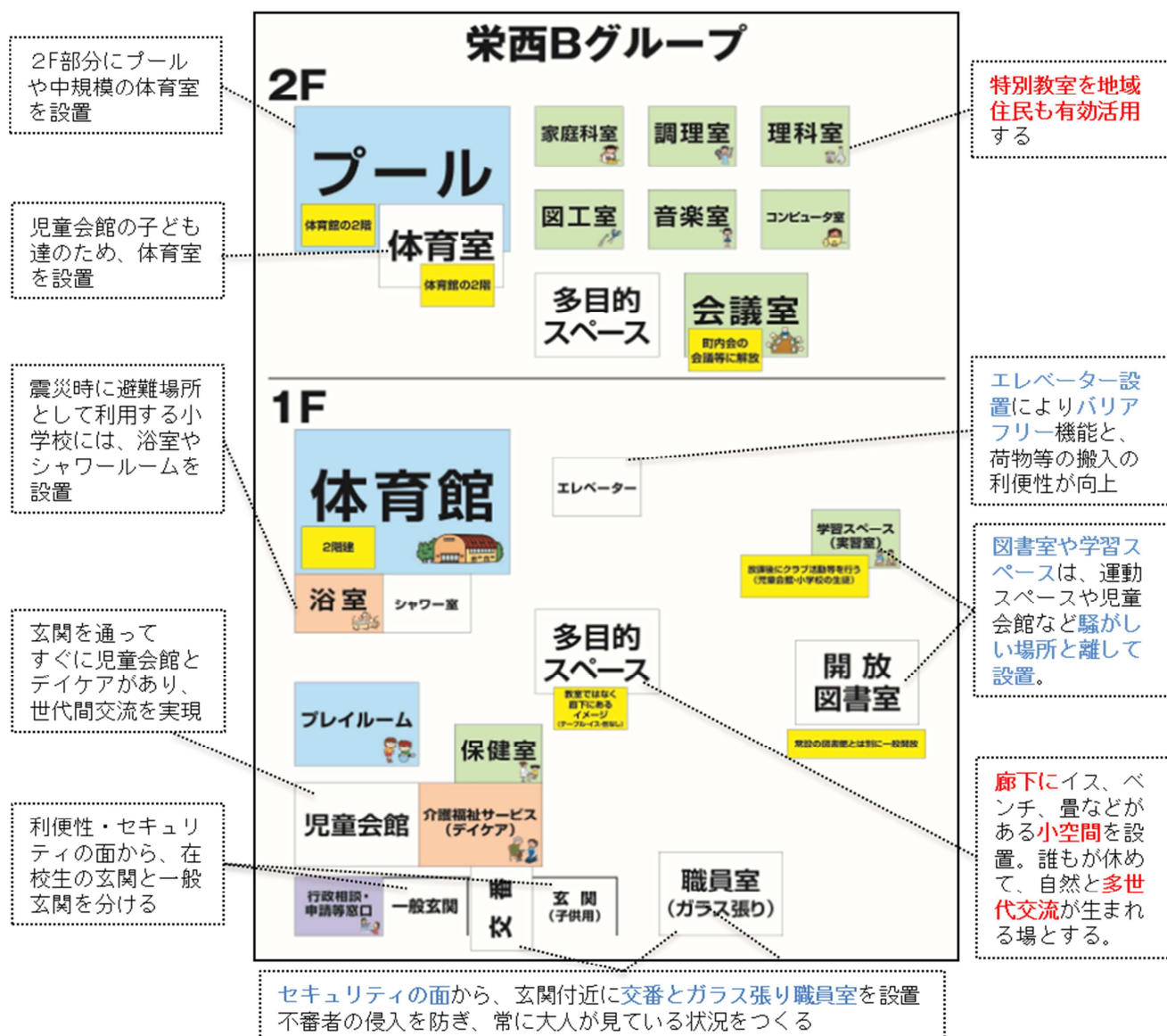
□栄西小学校 Aグループ

○小学校教育、地域福祉（まちセン・地区センター）、児童福祉（健全育成）の機能を有し、諸室の相互利用が可能な地域コミュニティ施設

□栄西小学校 Bグループ

【コンセプト・テーマ】

- 特別教室や多目的スペースの活用により、多世代交流が図れるとともに、大人の目が行き届き、子どもの安全に配慮された複合施設



《メリット》

- ・ 交番やガラス張り職員室の設置により、子どもの安全が配慮される
- ・ 共用部分に休憩できる多目的スペースを設置することなどにより、世代を越えた交流が可能

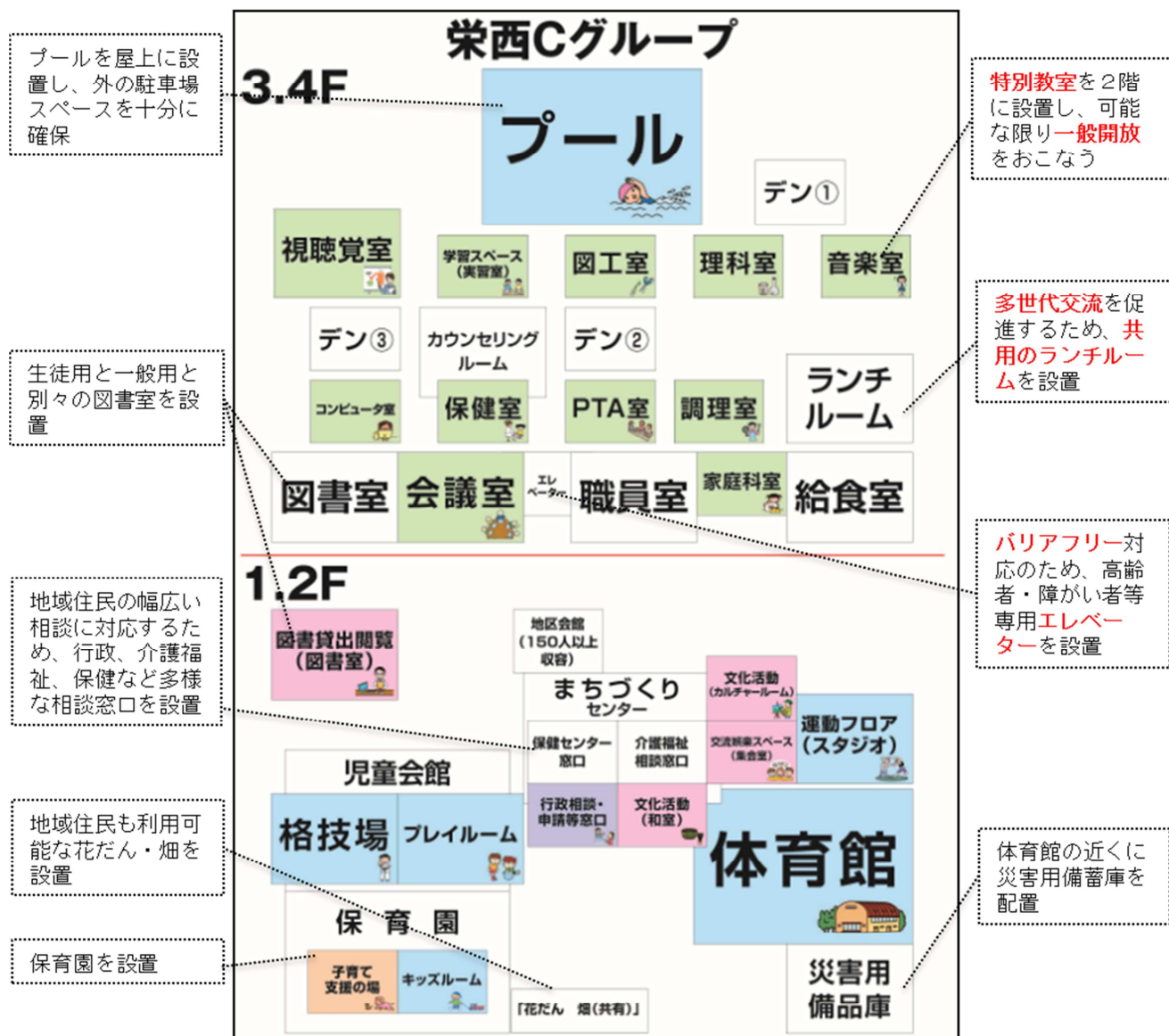
《デメリットや今後の課題》

- ・ 多種多様な利用者が訪れるため、交流のきっかけ作りを工夫する必要がある
- ・ 一般開放施設の利用時間、ルールなど運営管理を考える必要がある

□栄西小学校 Cグループ

【コンセプト・テーマ】

- 地域と小学校を結びつける安心地域交流施設
- 乳幼児からお年寄りまで利用できる複合施設



《メリット》

- ・子育て支援の場から介護福祉相談窓口まで設置されており、乳幼児からお年寄りまで利用できる施設となっている
- ・共用のランチルームや花だんなどの設置により、世代を越えた交流が可能

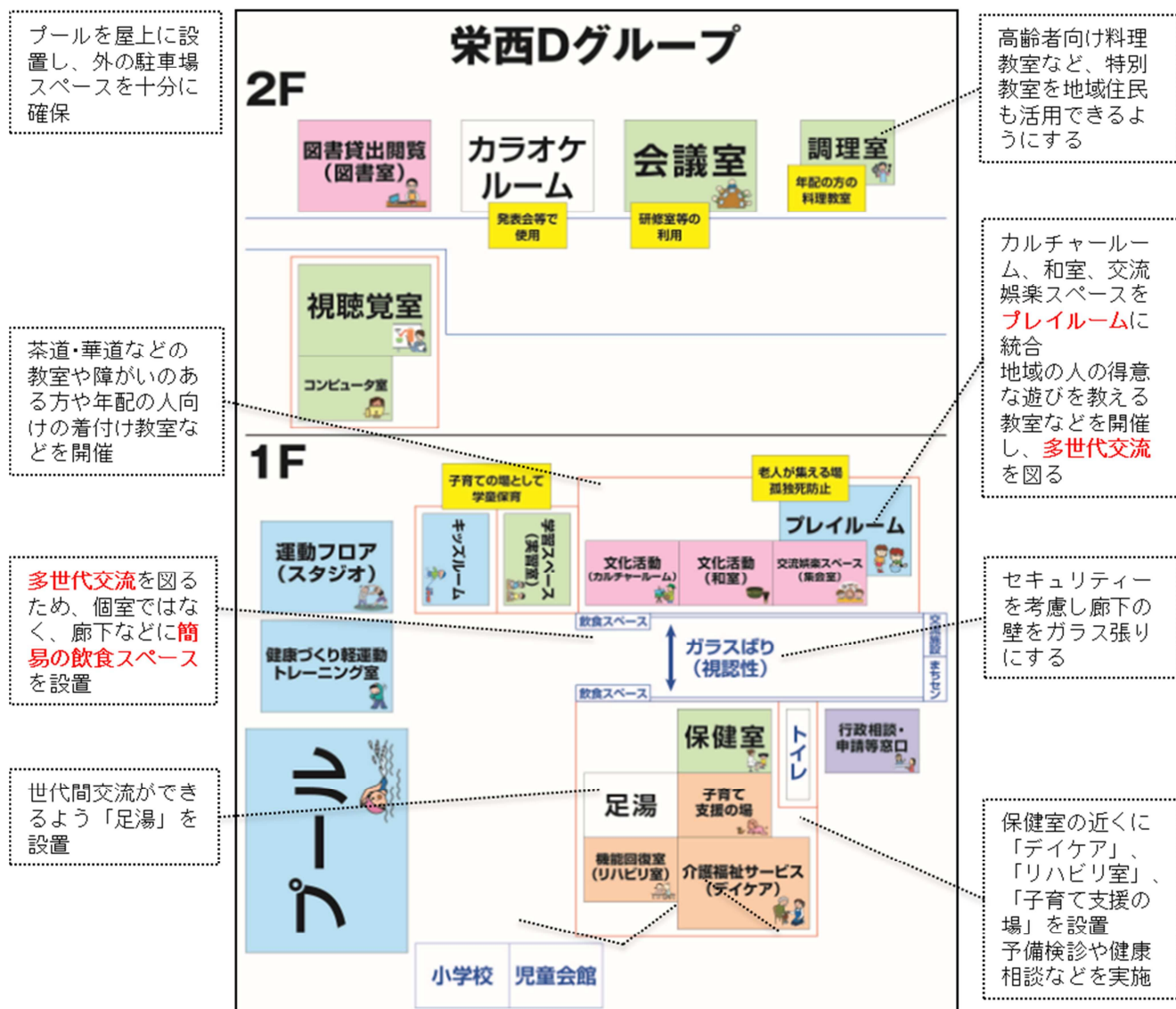
《デメリットや今後の課題》

- ・来所者が多く見込まれるため、十分な駐車場スペースの確保が不可欠
- ・一般開放用図書室について、管理運営主体をどうするか検討する必要がある

□ 栄西小学校 Dグループ

【コンセプト・テーマ】

- 世代を越えた交流ができる施設



《メリット》

- ・ 健康相談、介護福祉サービス（デイケア）などの設置により、年配の方が来所しやすい施設となっている。
- ・ 足湯や飲食スペースなどの設置により、施設全体を通じて交流が行える

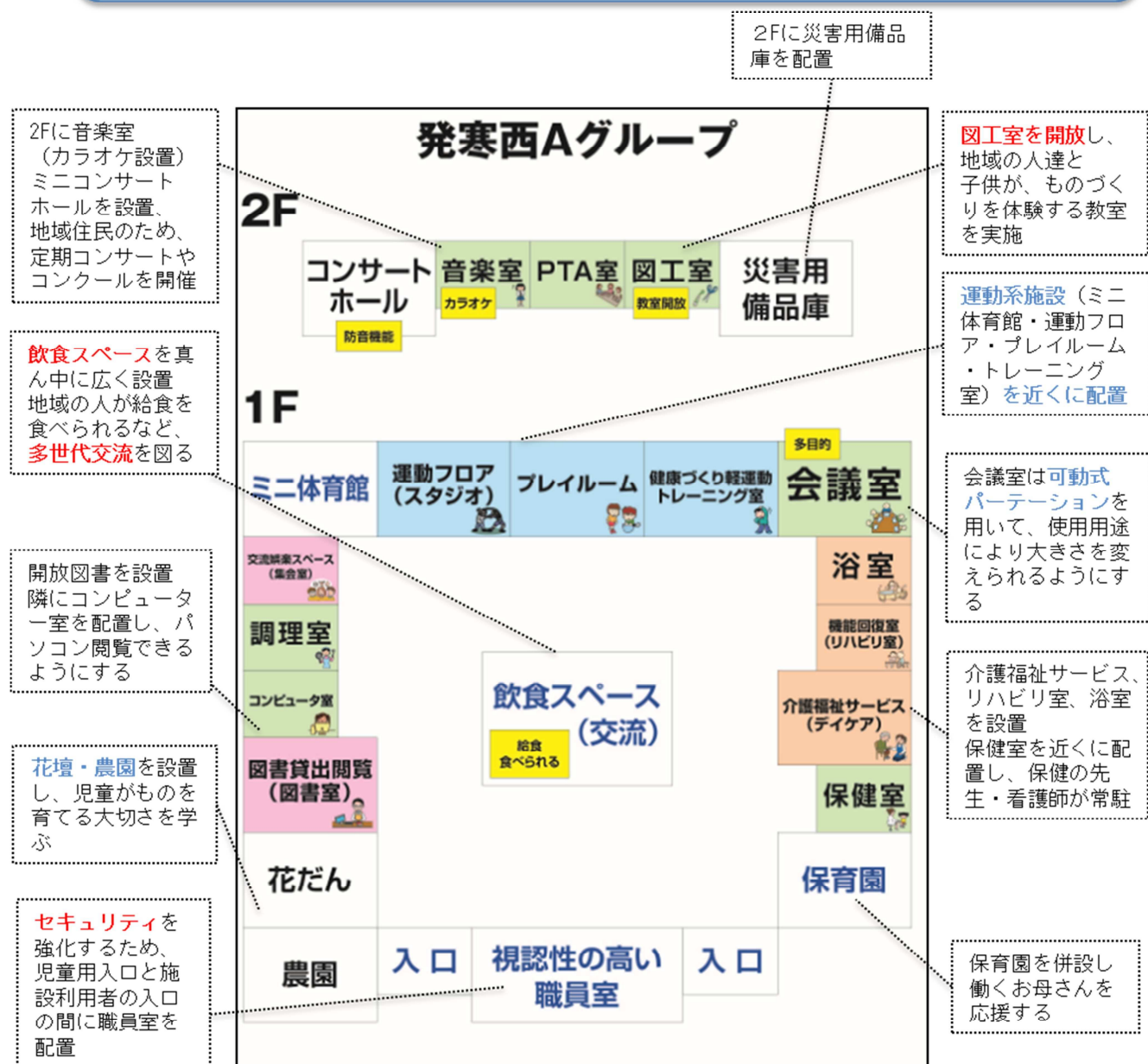
《デメリットや今後の課題》

- ・ 各施設の管理者や利用時間の取り決めなどルールと責任を明確にする必要がある

□発寒西小学校 Aグループ

【コンセプト・テーマ】

- 多世代が利用でき多様なアイデアで地域コミュニティを創る



《メリット》

- ・介護福祉サービス (デイケア) や保育園などの設置により、幅広い世代の方が来所しやすい施設となっている。
- ・広い飲食スペースなどの設置により、お年寄りや若い世代の交流を図り、人へのいたわりを学ぶ場とする。

《デメリットや今後の課題》

- ・来所者が多く見込まれるため、十分な駐車場スペースの確保が不可欠
- ・施設の管理をどうするか検討する必要がある
- ・保健室は一般の人が利用できるようなになると良いが、看護師などの配置が必要となる

□発寒西小学校 Bグループ

【コンセプト・テーマ】

- 地域の人々が集う場所

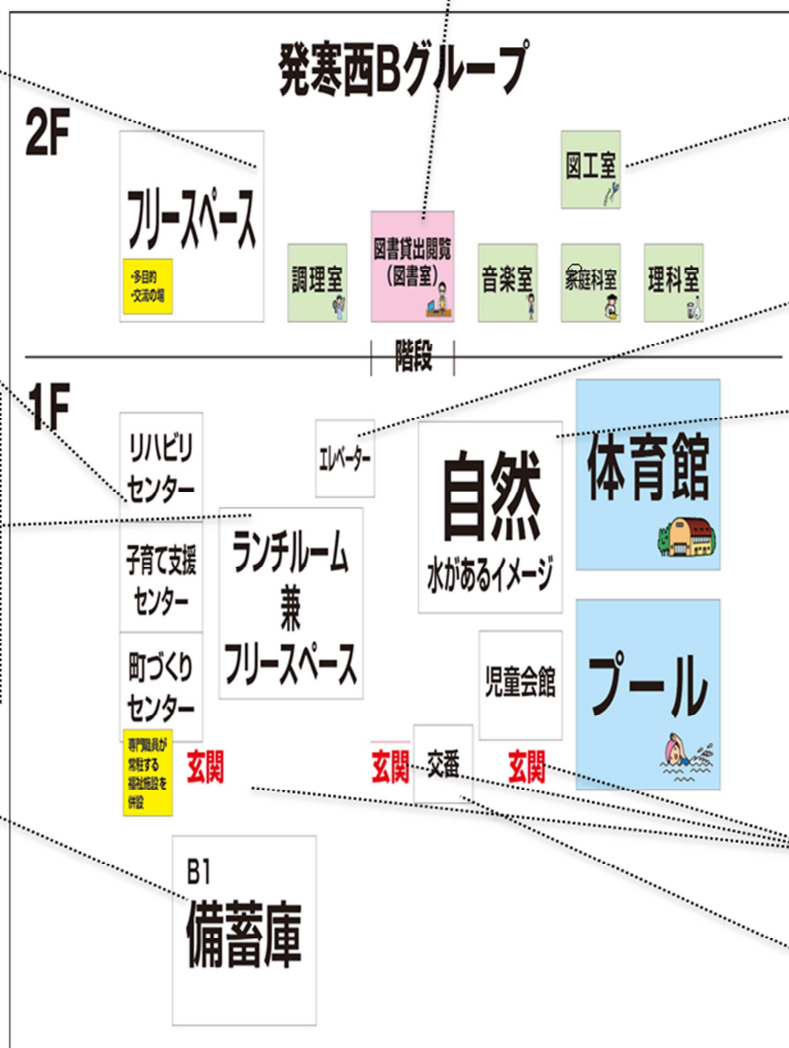
一般の方が入りやすいよう、2Fの階段を上がった目の前に図書館を配置
多世代が利用できる、最新の書物を揃えた図書館とする

フリースペースは、
その時代のニーズ
に合わせて
用途を柔軟に変化
させられるように
する

リハビリセンター
や子育て支援セン
ター等の福祉施設
を設置

多世代交流を図る
ため、ランチルーム
(兼フリース
ペース)を活用
2Fの調理室で
作ったものを提供
したり、誰もが給
食を児童と一緒に
食べられるように
する

災害時に備え、
体育館規模の備蓄
庫をB1Fに設置



特別教室（家庭科
室・調理室など）
を一般開放する

バリアフリー対応
のため、エレベ
ーターを設置

ビオトープのよう
な自然スペースを
設置
建物の中に水場が
あるイメージを創
出

玄関はそれぞれの
施設ごとに配置

小学校の玄関横に
交番を設置
究極の安全を実現

《メリット》

- ・ランチルーム兼フリースペースの設置により、世代を越えた交流が可能
- ・交番や施設ごとの玄関の設置により、セキュリティ面の強化を図る

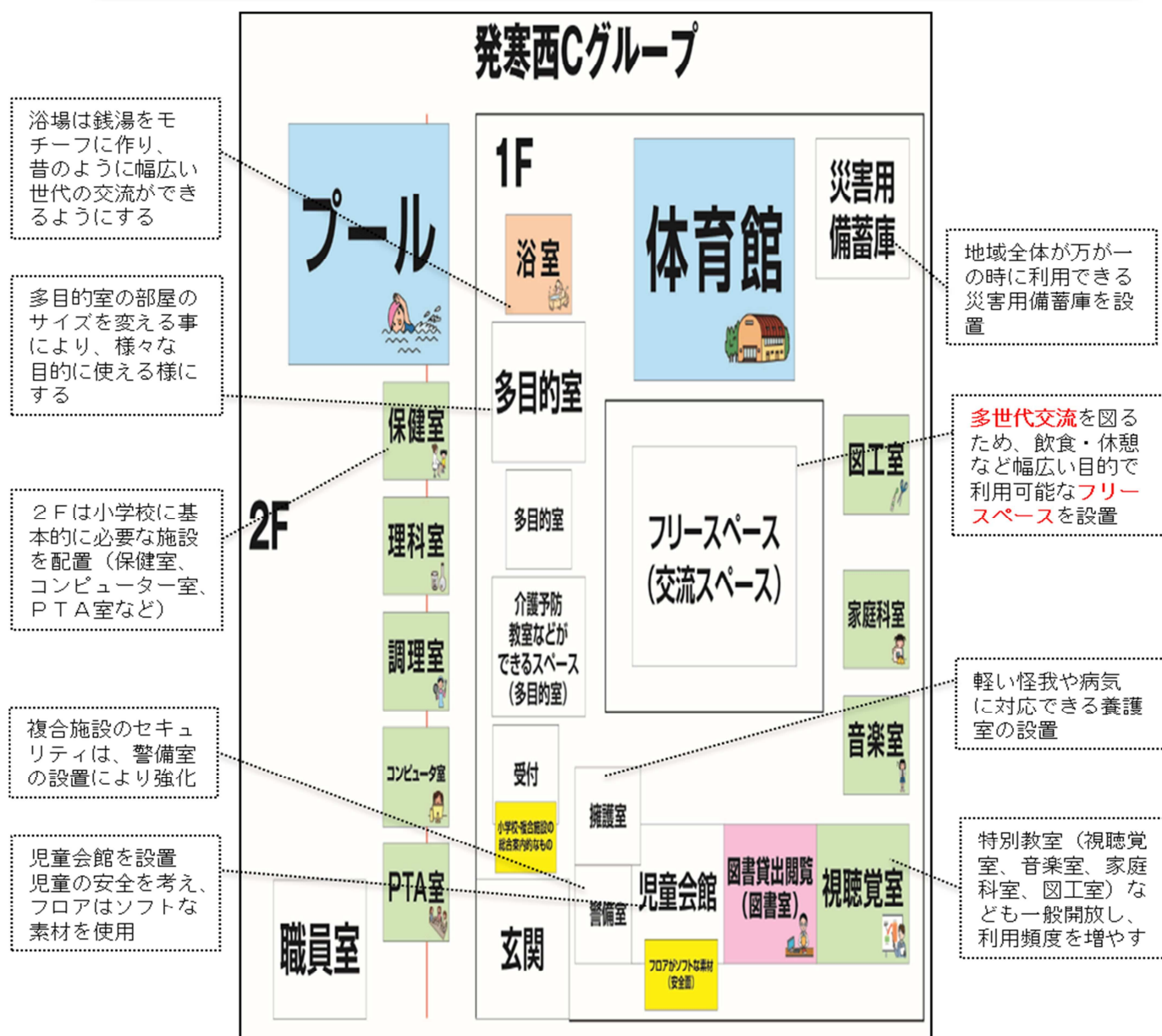
《デメリットや今後の課題》

- ・安全面や自然な雰囲気を実現するために、車の乗り入れをどうするか考える必要がある
- ・各施設の運営管理面（利用時間など）を検討する必要がある

□ 発寒西小学校 Cグループ

【コンセプト・テーマ】

- 幅広い世代が集まれるスペース
- 1F中央に広いフリースペースを設けて、世代間交流を図る



《メリット》

- ・ 特別教室の一般開放やフリースペース (交流スペース) の設置により、多世代交流が可能
- ・ 警備室の設置によりセキュリティ面が強化されている

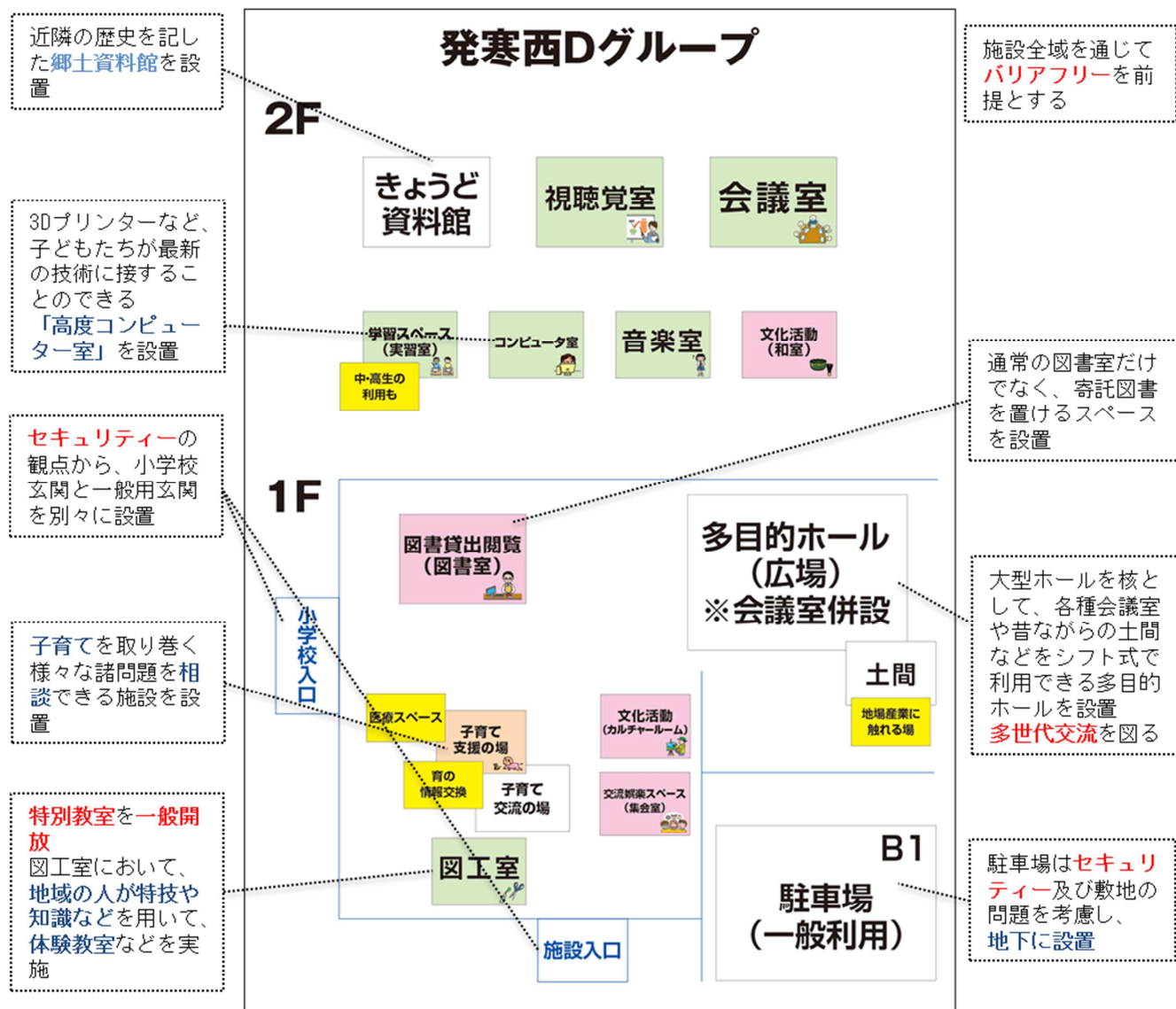
《デメリットや今後の課題》

- ・ 駐車場の確保
- ・ 浴室を作った場合の施設管理や整備手法を考える必要がある
- ・ フリースペースや多目的室など共用施設の使用ルールを定める必要がある

〇発寒西小学校 Dグループ

【コンセプト・テーマ】

〇世代間交流～コミュニケーションスペース



《メリット》

- ・子育て相談・支援の場を設置することで、幼少期から長期間にわたり利用が可能
- ・特別教室の一般開放や多目的ホールの利用により、多世代交流が可能。
- ・郷土資料館の設置により地域の歴史などを子どもが学習できる

《デメリットや今後の課題》

- ・各施設が効率的に利用されるための管理運営・調整役が必要
- ・各施設における使用ルール(使用時間・飲食など)を定める必要がある